

絵馬に描かれた身体及び技芸の表象分析

渡 邊 昌 史
(武庫川女子大学健康・スポーツ科学部)

Representation Analysis of Art and Body Images Painted on a Votive Picture Tablet

Masashi Watanabe

Department of Health and Sports Science, Mukogawa Women's University

Abstract

“The votive picture tablet” is the wooden board which is dedicated when praying at a Japanese Shinto shrine or temple. The custom of offering the votive tablet was originated in dedicating a real horse for God during the Nara era. Various pictures had been drawn by the Edo era. An individual dedicated a small votive tablet for the safety of family and the prosperity of business. Since the wish to Shinto and Buddhist deities was frankly not made to others, communication of people and Shinto and Buddhist deities was realized with the pattern of the votive picture.

In this research, the cultural code was read and solved by analyzing the representation of art and body images on the votive picture. The pattern in connection with the body images is related to the divine favor of Shinto and Buddhist deities. They are the contents for self-actualization to which an individual and a group can pray for progress.

1. はじめに

絵馬は民間信仰を基盤として伝承され、慣習化されたものであり、神仏に対する願掛けは他人にあからさまにできない事柄が極めて多い。そこに絵馬の図柄に託された、人と神仏のコミュニケーションとしてのコードが存在する。

本研究では絵馬に描かれた図柄のなかでも特に身体、及び身体に密接に関わる技芸に関する図柄を取り上げ、そこに表象されたコードを明らかにしようとするものである。なお、ここで扱う技芸とは、最広義に定義されるところのスポーツ(気晴らし、遊びを含む)に限定する。

具体的な対象としては筆者所蔵の絵馬のほか、関連文献、報告書、現地調査等において管見できたもののなかから、「身体」及び「技芸」に関連する図柄を抽出して考察する。なお、絵馬の多くはその性格上、作成・奉納された年代、地域を特定することは困難である。よって本論の目的に鑑み、絵馬における地域性、及び時代性については特に問わないものとする。

絵馬を読み解く試みとしては、岩井宏貴氏、召田大定氏などが絵馬の図柄の豊かな広がりを持示してくれている。こうした先著に導かれた本研究では、これまであまり関心をもたれていなかった身体及び技芸に関わる図柄の分析といった視座から、そこに託されたコードを掘り起こそうとするものである。

2. 身体及び技芸の表象

絵馬の形式は、大別して小絵馬と大絵馬がある。小絵馬は現世利益的な民間信仰の寺社や小祠、小堂

などに掛けられた小型の吊懸け式のものであり、大絵馬は神社の絵馬堂、寺院の本堂などに奉納される大型で扁額式のものである。

我々にとってなじみ深い小絵馬は、近世に奉納習慣が広まっていくなかで、神仏のご利益を巧みに表現し、機知に富んだ図柄のものが生まれてきた。馬の図のほか、神仏像、祈願の内容、干支など非常にバラエティーに富むが、なかでも最も図柄が多彩なのは祈願内容を描いたものである。個人祈願、現世利益を求め、願いごとを絵に託して絵馬を奉納した。絵馬の図柄は奉納者自らが描いたものではなく、そのほとんどが絵師の手によるものである。かつては、各地に専門、あるいは副業とする絵馬師がいたという。

(1) 直接的な表象

①手

掌を見せるように両手が並ぶ「もろ手」、あるいは掌を上に向けた前腕部分の「片手」を描いた絵馬である【図1】。

「片手」は手の病を治してくれる神様への信仰から手の病平癒祈願として、「もろ手」はかつて織物業が盛んであった地などでは投機的取引の際に相場を張るにはもろ手の働きが大事であったことから、相場に成功することを祈願したものである¹⁾。

また、「女工」と呼ばれた人々が紡績技術の向上を願って奉納したという²⁾。

②眼

見開いた目、いわゆる白目(強膜)と黒目(にある虹彩、瞳孔)を描いた絵馬である。眼の悪い者が良くなるようにと祈願、奉納した絵馬である。

両眼のみならず、眼が8つ描かれたものもある。これは「病む眼」の意味を通じさせるものであり、8眼の倍数の16眼、40眼もみられる³⁾。また、ひらがなの「め」が線対称で並ぶもの、さらには漢字の「眼」の組み合わせなど、さまざまなバリエーションが存在する【図2】。

これらはたいてい薬師如来に奉納される。薬師如来といえば広く病氣平癒のご利益があるとされるが、「十二誓願」の第一が「光明普照」であることから、光といえば目ということで、特に眼病平癒を祈願したものであろう。

③乳房

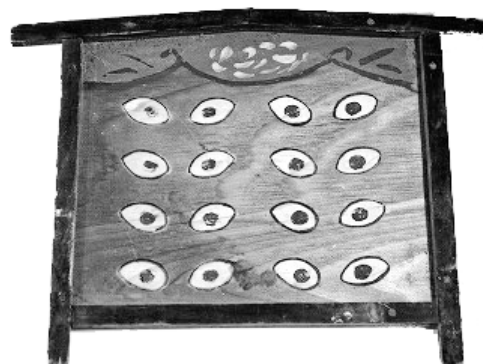
ふくよかな乳房が描かれた絵馬である【図3】。上半身の婦人病治癒祈願として奉納される。

④腰から下

婦人の腰から下、腰巻姿を描いた絵馬である【図4】。婦人病平癒、性病平癒祈願に奉納するようになったという。下半身の婦人病治癒祈願で【図3】と対になっている。



【図1】筆者蔵



【図2】筆者蔵



【図3】筆者蔵、奈良・赤乳神社



【図4】筆者蔵

(2) 行為, しぐさ

① 錨噛み

着物姿の婦人が大きな錨を口にくわえている図である【図5】。錨は船を繋ぎとめることから、揺らぐ歯の動きが止まるように、すなわち歯痛平癒の願いである。

② 散髪

月代(さかやき、頭頂部を剃刀で整える散髪)は近世までみられた風俗であるが、子どもはたいへんに嫌がって親にとっては一苦勞であった¹⁾。この月代嫌いを治すために、素直に月代してもらっている子どもの姿を描いた絵馬を奉納した⁴⁾【図6】。剃髪姿の絵馬は他に、一人前になった男の子の息災、頭痛治療、出家し僧籍に入った者が道心堅固、縁結びなどの祈願にも納められたという⁵⁾。

③ 授乳

着物姿で襟をはだけた婦人の乳房から乳が噴出している構図である【図7】。

粉ミルクが無かった時代は母乳の出によって、生まれた子の健康が左右されることもあった。母親の切実な願いがうかがえよう。

④ 入浴

子ども、または母子が気持ちよさそうに入浴している姿の絵馬である【図8】。「このようにあって欲しい」といった親心を表していよう。入浴嫌いの子どものお風呂好きになるようにとの願いが込められている。

⑤ 安眠

子どもが布団のなかで心地よそうに眠っている絵柄である【図9】。寝つきの悪い子の安眠祈願として、また、その姿は夜泣き癖の治った表現でもあり、夜泣きの治ったお礼に、あるいは寝小便の治るようにとの祈願から奉納された⁶⁾。

(3) ゴロ合わせ, 信仰

1) 動物

① 鶏

鶏が1羽、あるいは親子2羽以上描かれた絵馬である【図10】。

鶏は夜には鳴かないことから、子どもの夜泣き封じ、鳥目ということから夜盲症平癒の祈願でも奉納された。また、親鳥雌雄2羽と雛鳥の組み合わせは子宝祈願である⁷⁾。

② 鳩

鳩が描かれた絵馬である【図11】。鳩は豆を拾って食べることから、手足に肉刺ができたときに早く治るようにと奉納した。

③ 牛

牛が描かれた絵馬の願いごとはさまざまである。学問の神様として信仰される天神様へ奉納、学業上達を祈願する



【図5】岩井, p.79 (2007)



【図6】岩井, p.59 (2007)



【図7】岩井, p.54 (2007)



【図8】岩井, p.56 (2007)

のがよく知られる。

青草を食んでいる牛が描かれた絵馬は、皮膚病平癒祈願である【図 12】。「瘡」(くさ)を「草」になぞらえて「牛に食わせて治してもらおう」という願いが込められている⁸⁾。

④鯰(なまず)

長い髭を生やした頭の大きな鯰が一匹、あるいは複数並んだ構図などがある【図 13】。

皮膚病の一種である尋常性白斑をかつては「なまず」とも呼んだ。鯰にも腹一面にまだら状の斑点があり、ゴロ合わせから、鯰が皮膚病平癒の図柄となった⁹⁾。

他方、安産の祈願、子どもの無病息災、夫婦和合、結婚に関する祈願にも用いられた¹⁰⁾。

⑤鰯、鯖

鰯、あるいは鯖が描かれている。「鰯を食べると眼が悪くなる」という俗信から眼病平癒を祈願したものである。鯖も鮮度が落ちるとすぐに目玉が白くなることから、これらを禁食して奉納された¹¹⁾。

⑥赤エイ

大阪浪速区の広田神社は四天王寺の寺領であったことから、「寺領」を「痔良」にかけて、痔を良くしてくれる神とされた¹²⁾。同社の神の使いが赤エイなので、痔病の者は赤エイを禁食し、平癒祈願のために赤エイを描いた絵馬を奉納した【図 14】。

⑦蛸

蛸の絵が描かれた絵馬はさまざまな願いごとがあるが、蛸の吸盤から腫れ物が吸い出されることを連想して、タコ、イボの除去基盤祈願にも奉納された。また、蛸の目玉は鋭く丈夫であるから、その眼にあやかりたいという、眼病快癒を祈願するものもある¹³⁾【図 15】。



【図 9】筆者蔵



【図 10】岩井, p.70 (2007)

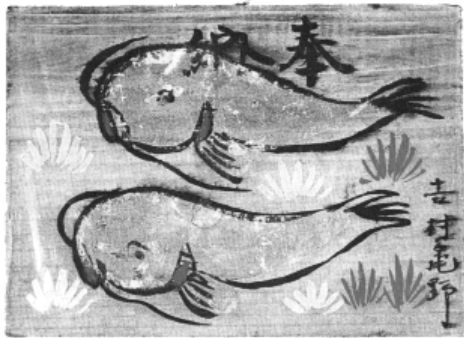


【図 11】岩井, p.80 (2007)

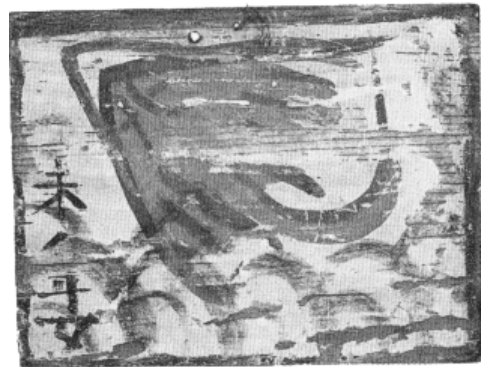


【図 12】岩井, p.68 (2007)

ⁱ 福沢諭吉が幼少の頃に月代を剃るのを嫌がり、母親が酒を飲ますことを条件に我慢させたという話はよく知られる。



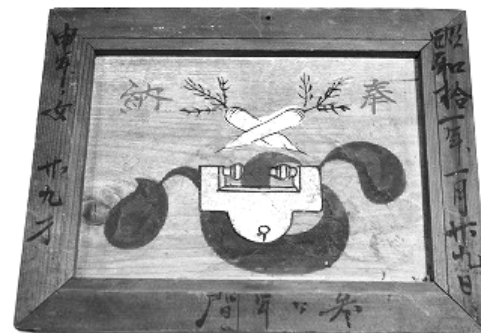
【図13】岩井, p.83 (2007)



【図14】岩井, p.89 (2007)



【図15】岩井, p.90 (2007)



【図16】筆者蔵

2) 物

①大根

2本の大根が交わっている構図である。大根は歓喜天(仏教における守護神の一つである)が左手に持ち、伝説では人間の味がするとされる。これを禁食、大根の絵馬を奉納して夫婦和合、福利増進を祈願した¹⁴⁾。

【図16】は違い大根の下に大きく「心」の文字、さらにその上に錠前がある。二股大根を女性とみなし、「心に錠をかける」との連想、すなわち女性側が男性の浮気封じを願ったものであろう。

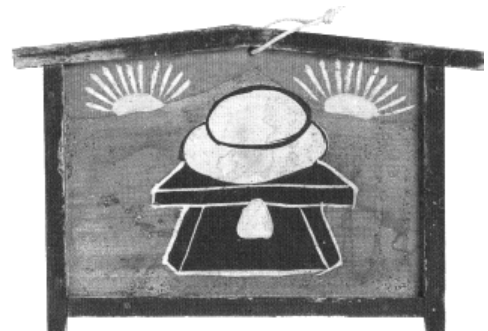
②重ね餅

三方に載せられた重ね餅の絵馬である【図17】。先の大根と同じく、夫婦和合を祈願して奉納したものである¹⁵⁾。

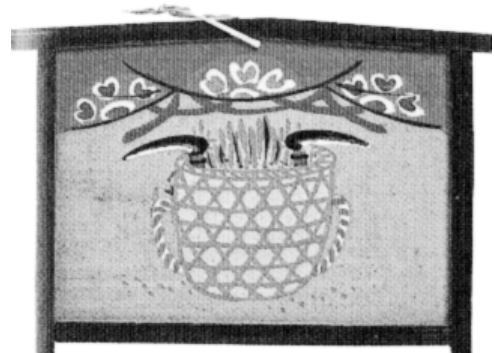
③鎌

鎌、もしくは鎌と籠が描かれている【図18】。瘡や腫れ物の平癒祈願に「瘡」(くさ)を「草」になぞらえて、このように刈り取ってくださいという意味であり¹⁶⁾、先述の「牛」と同様である。

他に、豊作、農耕中の無病息災を祈願して奉納されたところもある¹⁷⁾。



【図17】岩井, p.45 (2007)



【図18】岩井, p.83 (2007)

3. 技 芸

(1) 伝説・物語

①源為朝と鬼の力くらべ

武者と鬼が描かれた絵馬である。武者が片手で差し出した弓を鬼が両手で引っ張っている、武将と鬼との力くらべの図である【図 19】。武者は平安末期の武将源為朝と伝えられ、為朝が鬼界島に渡って、鬼を退治したという伝説がもととなっている。疱瘡神を鬼にたとえ、為朝の剛勇をもって疱瘡の流行をおさえてもらおうという願いが込められていた¹⁸⁾。

【図 20】は北野天満宮に奉納されている大絵馬である。剥落が著しいが右側の男性は平安時代の装束である烏帽子を被っていることから「為朝伝説」をモチーフとしていると推測される。鬼が手にする縄が為朝の首に掛かるが、悠然たる態度でかまえた為朝には余裕すら感じさせる。

②平将門

赤い腹掛けが描かれている【図 21】。

栃木県の足利神社には、天慶の乱の時に敗れた平将門の腹部がここまで飛んできたので祀ったという伝承がある。腹の病にご利益があるとされ、その祈願として腹掛けの絵の絵馬が奉納される¹⁹⁾。

(2) 技芸

①相撲

土俵上で、力士が四つに組み合っている図である【図 22】。特徴的なことは両力士の肌の色の違いである。手前側の白肌の力士が、赤膚の力士をがぶり四つで向こうへ押し込んでいる。

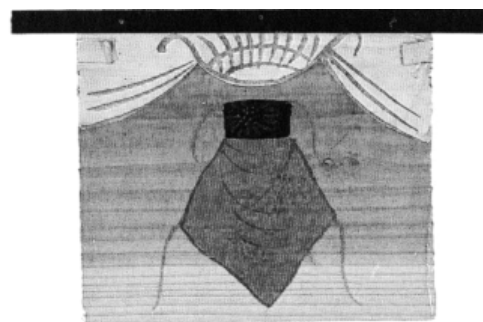
白肌の力士が勝つように、すなわち容色がよくなるようにとの願いから、婦人が自らのため、また娘のために奉納した。後に容色だけでなく、顔の病をすべて一枚で済ませるようになったという²⁰⁾。



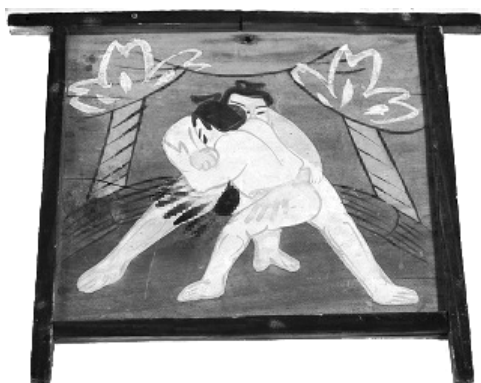
【図 19】岩井, p.82 (2007)



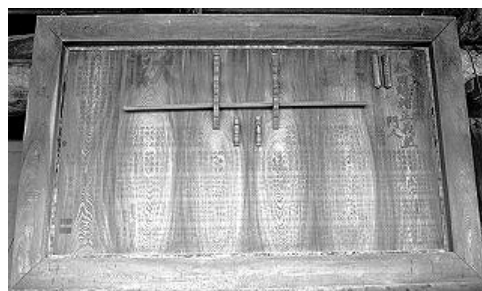
【図 20】筆者撮影 (2011)



【図 21】岩井, p.85 (2007)



【図 22】筆者蔵



【図 23】筆者撮影 (2005)

②武芸一般

これまで見てきた絵馬は【図 20】以外はいずれも小絵馬であった。小絵馬の習俗は、組織をもたない民間信仰を基盤として伝承され慣習化されてきたものであり、個人のあからさまにできない気持ちが込められている。いわば、秘めごととしてひっそりと奉納されたものである。

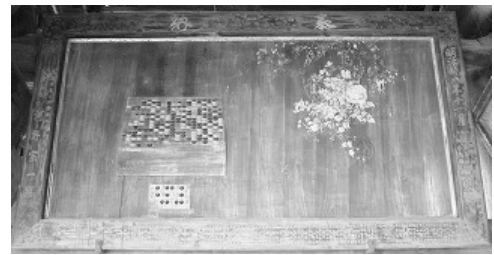
これに対し、大絵馬は何らかの集団、個人が共同して作成し奉納する、初めから他者から見られる、あるいは見せることを念頭に掲げられたものである。上達を祈願したり、試合に勝った際、あるいは自集団・流派の存在を誇示するものが多い。

広島県宮島において千畳閣の名で知られる豊国神社には武運、商売繁盛、天下太平など、さまざまな大絵馬が掲げられている。瀬戸内の潮風、雨風のため図柄は消えつつあるが、往時の願いを知ることができる。

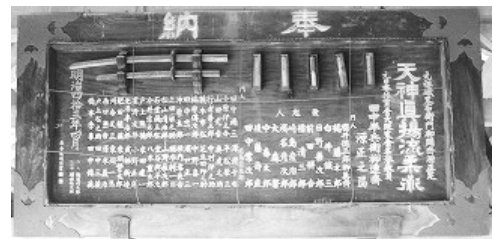
【図 23】は、消えかかった文字からかろうじて、明治時代に武術団体の門人たちによって奉納された絵馬であることがわかる。右上には伝書、中央上部には棒術の棒を模した工作物が配置され、下には門弟の名が並ぶ。

【図 24】も同じく豊国神社に掲げられている。浮彫された碁盤がみえることから、囲碁団体によると推測されるが、それ以上の判読はできない。

【図 25】は、大阪府の住吉大社の絵馬堂にある大絵馬である。比較的状态がよく、明治 43 年に天神真楊流の門人によって奉納されたことがわかる。伝書 5 巻とともに大小 2 本の刀を模したデザインとなっている。



【図 24】筆者撮影(2005)



【図 25】筆者撮影(2010)

4. 表象される身体・技芸

本研究では絵馬のもつ性格上の制約から地域性、及び時代性については、あえて捨象し、そこに描かれた身体及び技芸に関する図柄を取り上げてきた。

これまで見てきたように絵馬には、願いごとを絵に託し、さまざまな図柄が描かれてきた。絵馬の図柄が表象しているのは、願いごとを直接的、あるいはゴロ合わせ、洒落で間接的に表し、神仏などに伝えようとする、人々の巧みな知恵であったといえる。

本論で扱ったのは身体 9 件、ゴロ合わせ・信仰 10 件、技芸 4 件に過ぎないが、身体に関わる直接的な表象において身体全体を表すものは見られず、描かれるのは上半身、あるいは下半身、身体部位では眼、手、乳房に限定される。これは、民間伝承と密接な関係性を持っていると考えられる。

民間伝承と身体との結び付きについて、安井眞奈美による妖怪・怪異と身体の関係の研究では、頭からつま先まで全身がくまなく「妖怪に狙われやすい」ことを明らかにしている²¹⁾。怪異伝承は身体各部位とすべからず結び付くといえるが、絵馬習俗においてそれは当てはまらない。

絵馬に見られる身体観としては、解剖学、生理学に基づく西洋医学的な理解による身体内部、すなわち内臓諸器官そのものを対象とすることは見られない。また、東洋医学における人体を「小宇宙」ととらえる理解も同様に見られない。

行為、しぐさについては、女性と子どもに限定され、菌以外では子どもに関わるものである。いずれも「かくありたい」という願望を端的に表した構図となっている。

ゴロ合わせ、信仰に関しては、言葉遊びとしての洒落によって願いごとと身近な生物、物が掛けられている。

技芸における伝説・物語では「為朝」「将門」といった、強烈ともいえる個性をもったがゆえに神格化

された「力」に願いごとを結び付けている。

武芸一般にみられる大絵馬は、小絵馬のような秘めた願いごとではなく、個人、あるいは集団のあからさまな自己顕示欲、存在誇示の表出といえる。今日の感覚からすれば、コマーシャルボード的な意味合いをもっている。

例外とも言えるのが「相撲」である。【図 22】は本論で取り上げた絵馬のなかでも、もっとも願いごとが巧みに込められた表象の一つといえよう。相撲絵馬が物語るのは女性が絵馬に秘めた願いごとの秘密性と告白性の両義性であり、そこには奉納者と神仏だけにのみ相通じるコミュニケーションが成立している。

かつて、小絵馬は人知れず奉納するものがあった。神は祈願者の心意を知ってくれるものと信じ、祈願者は名を表さず干支あるいは年齢と性別のみを書いた(図 16 参照)。翻って今日、現代人が絵馬に込める願いは受験、就職、スポーツの勝利などの現世利益に直結し、神仏との関わり合いは一方的な願望となり、氏名はおろか住所まで書くような「熱意」となっている。

絵馬におけるコミュニケーションの変化もさることながら、身体文化をめぐる大きな変化、遺伝子治療などの先端医療技術、さらには「デザイナーベビー」などの新たなハイテクノロジーの展開などによって、これからの絵馬にはどのような身体・技芸が描かれることになるのだろうか。「絵馬に願かけて」考察を続けて行きたい。

¹⁾ 岩井宏貴『絵馬』法政大学出版局、東京、pp.179-180 (1974)

²⁾ 召田大定『絵馬巡礼と俗信の研究』慶文堂書店、埼玉、p.202、(1967)

³⁾ 岩井、p.177

⁴⁾ 岩井、p.168

⁵⁾ 召田、p.157

⁶⁾ 岩井、p.169

⁷⁾ 岩井宏貴『絵馬に願いを』二玄社、東京、p.70 (2007)

⁸⁾ 岩井、pp.169-170 (1974)

⁹⁾ 岩井、pp.185-186 (1974)

¹⁰⁾ 召田、pp.280-281

¹¹⁾ 岩井、pp.177-178 (1974)

¹²⁾ 岩井、p.153

¹³⁾ 岩井、pp.155-156

¹⁴⁾ 岩井、p.142

¹⁵⁾ 岩井、p.45 (2007)

¹⁶⁾ 岩井、pp.170-171 (1974)

¹⁷⁾ 召田、p.193.

¹⁸⁾ 岩井、pp.171-172

¹⁹⁾ 岩井、p.85 (2007)

²⁰⁾ 岩井、p.184 (1974)

²¹⁾ 安井眞奈美「妖怪・怪異に狙われやすい日本人の身体部位」『妖怪文化研究の最前線』せりか書房、東京、pp.244-268 (2009)

受稿日 2014 年 9 月 12 日 受理日 2014 年 11 月 7 日